

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101363		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム春日苑川内		
所在地	徳島市川内町沖島273番地		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の静かな環境の中、家庭的な雰囲気味わっていただきながら、ゆったりとした生活を楽しめるよう全スタッフ一丸となり支援させて頂いております。もしお身体が不自由になられても特殊浴槽も完備しておりますので、ゆっくりとお湯に浸かってくつろいで頂けます。「認知症であっても地域の中でひとりの人として当たり前の生活が出来るよう支援していきます」の運営理念の基に各ユニットでも目標を設けて実践させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑の広がる静かな環境に位置している。広い敷地のなかに、玄関を起点として3つのユニットが放射状に延びて、各ユニットの間の中庭には、草花や山茶花が咲いている。利用者は、気候の良い日には、中庭でお茶の時間を楽しんでいる。敷地内の菜園では、野菜を育てて、食事に取り入れている。利用者と職員は、一緒に会話を楽しみながら食事をとっている。職員は、利用者に寄り添い、利用者の思いや意向を汲み取ることに努め、利用者目線での日頃の暮らしを実践している。代表者と管理者、職員は、日頃から気付きや提案を出し合っ、自由に話しあえる関係を築いており、サービスの質のさらなる向上を目指して実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症であっても地域の中で一人の人として当たり前の生活が出来る様に支援していきます」という理念を掲げ申し送りの際唱和している	事業所は、設立当初からの理念を大切にしている。職員は、申し送りの際に、全員で理念を唱和して共有を図っている。ユニットごとに理念の実践のための目標を立て、支援に繋げている。日々の支援のなかで、理念を反映できているかを振り返り、話しあう機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の一員となり町内の行事等に参加を行い交流を深めている	事業所は自治会に加入し、地域の文化祭や秋祭り、町民運動会、清掃活動などに参加している。毎月、事業所の庭に、移動図書館の来訪があり、利用者と地域住民の交流の場になっている。ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のスーパーや喫茶店へ外出を行い交流を図り認知症の人への理解や支援を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニット毎に2ヶ月に一回テーマを決め取り組んだ事柄を発表し共有を行う事でサービスの向上へ繋げている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、地域の代表者、市担当者、医師や消防署、近隣の事業所等、多方面からの出席を得ている。会議では、テーマを決めて意見交換を行っている。会議で出された意見などは、全職員に周知し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にはサービス等の取組みで分からないことがあると積極的に相談を行い協力関係を築いている	職員は、市の担当窓口へ直接出向き、担当者顔なじみの関係を築いている。対応困難事例についても相談し、アドバイスをもらうなど、協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行い、しない方向で周知徹底に努めている	事業所では、身体拘束に関する研修会を開催し、全職員が身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。日中は施錠をせず、自由に出入りできる環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議の中で高齢者虐待防止について学びまた、職員個々にアンケートを実施し安心して暮らせるよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修等で学ぶ機会を設けている 必要に応じて活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には利用者様、ご家族様に十分な説明を行い理解や納得をしてもらえよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時にご家族様の意見等を聴くことで運営につなげている	事業所では、家族の来訪時や家族会の際に、利用者の生活状況や様子を伝えており、家族の意向を聞いている。また年一回、アンケートを実施し、意見や要望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議申し送り時等その都度意見を出し合い運営に活かせるように努力している	事業所では、毎朝のミーティングや職員委員会の際に、日々の気付きや意見を出し合っている。代表者や管理者、職員は、気軽に話しあえる関係を築き、意見や提案は検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を取り入れたり意見を聴く場を持ち、職員一人ひとりがやりがいに繋がり働ける職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人に自己評価表を定期的につけてもらい面談することでその時々を把握し研修等に参加することでスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に交流訪問したり受ける事でネットワーク作りを行い活動を通してサービスの向上を挿せる取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や利用者様とコミュニケーションを図りながら利用者様の意思や意向をくみとり無理強いをせず馴染みの関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意見や要望を聴き話し合う場を設け不安感を取り除くと共に信頼関係が持てる様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様が求めているサービスを中心としその他のサービスへの対応にも努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等の軽作業を共に行う事で利用者様の出来る事出来ない事を探しながらお互いに役割を持ち信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間やお誕生会等には家族で過ごせる時間を提供している。また、年賀状や写真、お手紙等を送り日常の近況を報告し関係作りを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人や知人の面会や電話等の受け入れの機会を提供したり居室等でゆっくりと楽しむ場を提供し関係が途切れないようにしている	事業所では、利用者が実家や馴染みの場所に出かけることを支援している。職員は、利用者の親せきや知人の来訪時には、職員はゆったりと過ごすことができるよう努めている。年賀状や暑中見舞いのやりとりも支援し、馴染みの関係が途切れることのないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で歌や踊りを一緒に楽しんだり、共同作品を作る等、共に達成感を得る事で利用者様同士で良い関係作りが出来る様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても近況を伺ったり状況を把握し本人様ご家族様から相談を受ける等の支援をし関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の希望や意向を把握しその人らしい暮らし方をして頂けるように努めている	職員は、利用者の言葉に耳を傾け、本人の意向や希望を把握できるように努めている。意思の表出が困難な利用者も、表情やしぐさに着目し、一人ひとりの思いを汲み取ることができるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握し利用者様のこれまでの生活をなるべく続けてもらえる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態に気を配り残存機能を把握しながら日々の支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い利用者様ご家族様の意見やアイデアを取り入れながら個々にあった介護計画を作成するようにしている	事業所では、職員の日頃の気付きや本人や家族の意向、情報をもとに、現状に即した介護計画を作成している。介護計画は、設定期間ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録等情報を職員間で共有しケアの実績や介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状況に合わせた柔軟な支援やサービスを提供できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の銀行、マーケット等を利用することによって一人ひとりが生き生きと安全に暮らしながら楽しめる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様ご家族様の希望を重視しかかりつけ医と事業所との連携を図りながら適切な医療が受けられる様支援している	事業所では、利用者や家族と話しあい、協力医療機関での受診を支援している。希望するかかりつけ医の受診も対応している。協力医療機関の往診もあり、緊急時の協力体制も確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者様の体調を口頭で伝えたり医療連携ノートを利用することで適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様のダメージを軽減できるよう病院関係者と情報交換や相談を行う事で双方の関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様ご家族様の意見を聴き事業所で出来る事を十分に話し合いながら方針を共有し医療関係者を含めチームで支援に取り組んでいる	事業所では、看取りの指針を整備し、重度化や終末期における事業所の方針について利用者や家族に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて家族や関係者で話しあい、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え介護職員による対応、救急法等の勉強会を行いスムーズに対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、災害における訓練を定期的に行い実践できるよう努めている	年2回、さまざまな災害や日中・夜間を想定し、利用者とともに実践的な避難訓練を実施している。また、日頃から散歩の際等に避難経路を確認したり、観察したりして、新しい情報を全職員で共有している。災害時に必要な食品や備品も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者様一人ひとりのプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている	事業所では、職員に利用者の方の人格の尊重やプライバシーの確保について就業時に説明し、誓約書を作成している。日頃のケアのなかで適切な言葉かけや対応ができていないかを確認しあう機会を持ち、職員間で振り返りつつ、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを図る事で利用者様の思いや意向をくみ取り利用者様なるべく自己決定出来る様に配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にしたい事がある時はしてもらい今までの生活リズムを崩さないように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容の利用、またメイク衣装を選んでもらいその人らしいお洒落が出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けを職員と共に行ったり外食をしたり苦手な料理が続かないよう配慮し食事を楽しんでもらえるよう支援している	事業所では、利用者の好みや希望を取り入れつつ、職員が献立を立てている。近隣の農家からの差し入れや事業所で育てた野菜など、季節の新鮮な野菜を利用するなどしている。利用者には、下ごしらえなどできる範囲で役割を担ってもらっている。利用者と職員は、一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事量を把握し、一日に必要な摂取量の確保に努めている。また、利用者様の状態に合わせて毎食後うがいや歯磨きをしてもらい口腔内の清潔を保っている。また、訪問歯科も利用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に合わせて毎食後うがいや歯磨きをしてもらい口腔内の清潔を保っている。また、訪問歯科も利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターン習慣を把握し時間を決め言葉かけ等行い自立に向けた支援に努めている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。できるだけオムツの使用を減らし、利用者が、トイレで気持ちよく排泄できるように、トイレ誘導や声かけを行うなどして、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の状態観察を行い適度な水分補給や軽い運動をして頂いている。便の出ない日が三日続いたら、便秘薬を使用し排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に合わせ、体調の悪い時や気分の向かない時は無理に入浴を勧めず、入浴出来る時に気分よく入浴してもらえよう心掛けている	事業所では、利用者の好みに合わせて湯の温度や時間帯などに配慮し、気持ちよく入浴できるように支援している。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯などを利用し、入浴を楽しめるように工夫している。事業所は、特殊浴槽を完備し、重度化する利用者にも対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活の安定を図り不安を取り除きながら安心して眠ってもらえるよう、支援している。傾眠が強い方には日中臥床時間を作り居室で休んで頂いている。不眠の訴えがある利用者様には眠剤を使用し安眠していただけるよう支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用している薬を把握し確実に服薬介助を行っている服薬後も体調の変化の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれに応じ洗濯物や裁縫等してもらい役割を持っていただき、又、歌を唄ったり散歩を行い気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様にも協力してもらい、外出、季節に応じ花見やドライブをしている	事業所では、日常的に周辺の散歩に出かけるなど、利用者の気分転換を図っている。また、買い物や外食など、利用者一人ひとりの希望に応じた個別の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出の際自ら支払いを行える場を提供しお金を使える喜びを感じてもらえるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や電話を通じ外部との交流を日常的に行えるよう環境作りに努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住居スペースを清潔に保ち落ち着いた雰囲気作りを心掛け安心して過ごせる環境作りに努めている	共用空間は、明るく、清掃が行き届いている。各所に季節の花を飾り、季節を感じることでできるよう工夫している。利用者がゆったり過ごせるようにソファを設置し、利用者は、花や木を眺めながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にもホールやソファで休んだり他の利用者様と談話したりできる場所を提供しながら居場所の確保に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には普段より使っていた家具等を配置してもらい家庭と変わらない安心して生活して頂けるよう環境作りに努めている	居室には、利用者の使い慣れた家具や趣味の物を持ち込んでもらっている。居室内には、収納スペースがあり、ゆとりをもって安全に過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等の案内を分かりやすく表し本人様が安心して利用でき安全に過ごせる環境作りに努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を全員で声に出し確認している		朝の申し送りの際に理念を職員が唱和し、地域密着型サービスの意識を再確認し実践に繋げています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への参加をお願いしたり地域の文化祭に作品を展示していただき当日見学に行ったり事業所周辺を散歩する時に挨拶させていただいたりしている		町内の文化祭、秋祭り等に参加するなど地域の一員として交流を深めています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買物や食事に一緒に出向き地域交流を図り認知症の人の理解や支援に努めている 活動内容を運営推進会議で発表させていただいている		近隣のスーパーへ出向いたりするなど地域交流を図り認知症の人の理解や支援を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の事業所での取り組みを参考にしてみたり良い意見と思うものは実践してみたりしている		二ヶ月に一回運営推進会議を開催し利用者様のご家族、地域住民、包括支援センターの方も参加して頂き取り組み状況報告を行い意見交換した上でサービスの向上に活かしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは連絡を取り合い協力関係を築けるよう努力している		日頃から市町村担当者の方とは連絡を取り合い情報交換を行いサービス向上に役立っています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的に行っている職員同士で注意し合い拘束しない介護をしている		苑内研修を行いマニュアルを作成するなど拘束しない方向で取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的に行っている新人にも研修の時に教えたりしている		虐待防止の勉強会を行い周知徹底することで奉仕に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を定期的に行っている必要な入居者がいる時には相談にのることもある	苑内研修を通して権利擁護成年後見制度について学び活用できるよう取り組んでいます			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様来苑時に事務所に十分な説明を行っている	契約・解約・改定時の際は十分な説明を行い理解や納得して頂けるよう努めています			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートにて意見をいただき運営推進会議での発表やアンケート結果は家族様にお渡ししている	意見箱の設置や面会時など家族の方からの意見や要望を聴くことで運営に反映させています			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対するアンケートや会議での意見・個人的意見や提案を聞き反映させている	ユニット会議・全体ミーティング申し送り等、意見を出し合う事で運営に反映させています			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の資質向上の自己チェックのあと、面談を行い、本人の希望や意見を聞いている。キャリアパス要件に照らし合わせながら、処遇改善手当や昇給に反映させている	労働日数・時間・曜日指定の休日などの希望に対応することで、無理なく勤務が継続出来る、ステップアップにつながるように配慮している			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外の研修に参加し同職者に発表することで育てていったり新人に対しては皆で指導している	自己評価表の活用・苑内・苑外での研修機会の確保をすることで個々のスキルアップに努めています			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の参加者や他事業所の運営推進会議や祭りの参加により交流できている	他の事業所等の運営推進会議や行事へ参加し、活動を通して交流の機会を増やすことでサービスの向上に努めています			

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より見守りを強化し職員同士の連絡を密にし情報を共有し合い本人様の望んでいる介護ができるように努力している	本人様、ご家族様とのコミュニケーションを図り困っている事や不安な思いを聴く機会を作り安心感を持てる関係作りに努めています				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からも情報をいただきながら困っている事、不安なことを一つずつ解決できるように職員同士や家族様も一緒に考えて一番良い方法で介護出来るように話をしている	ご家族様の意見や要望を聴き不安を取り除けるように努力し信頼関係が築けるよう努めています				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の意向を聴き職員同士も話し合い本人様に一番良い方法を探している	利用者様・ご家族様の要望や意見などを傾聴し職員間でも周知した上で対応に努めています				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に献立作りをしたり、調理した後は味の感想を聞いて参考にしたり、昔の事を教えていただいたりし助けていただいている	家事、軽作業を一緒に行う中で利用者様の出来る事探しお互いに役割分担をしながら信頼関係を築いています				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の今の状態を伝え家族様にもどのように対応していたのか聞いたりし参考にしたり相談し本人様に一番良い方法を探している	家族様来苑時や家族会等には家族だけで過ごせる時間や場を提供しています。また、写真手紙等を送付し近況報告を行っています。家族様来苑時にはご意見やご要望を聴きながら関係作りを行っています				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションをとるときに馴染みのある人や場所等を話題にしたり昔得意だったことにチャレンジしたり馴染みの店に行ってみたりしたい	利用者様の知人等の来苑や電話等の受け入れをしたり、行事への参加を勧めたりゆっくり楽しむ場を提供し関係が途切れないように努めています				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性を考え席を決めたり相性が悪い人同士は少し遠ざけたり職員が間に入ったりし孤立しないように支援している	散歩や歌の支援をしたり手芸で共同作品を作る等、皆で喜びあえる場面を作り、利用者様同士のコミュニケーションが図れるように職員が橋渡しを行っています				

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に転院された方のところへはお見舞いに行ったり家族様の希望があればいつでも相談にのれる用意をしている		サービスが終了しても行事等の案内を行い関係を継続すると共に相談にのる等の支援を行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意見をお聞きし希望を優先して暮らししていけるように検討し支援している		個別に居室を訪問することで利用者様の思いや意向を把握し出来る限り本音が聴けるよう努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や前の事業所・施設などからお聞きしたり本人様からお話を聞き取り対応している		主に家族様やご本人様からの聞き取りを行い場合によっては事務所棟の聞き取りも行うなど対応に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人を観察したり本人様家族様にお聞きし把握するようにしている		一日の過ごし方・状態観察をしっかりと把握し日々の支援を行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット内では一か月に一度会議をし課題とケアの方法を統一して意見を出し家族様や関係者それぞれから意見をいただき介護計画を作成している		本人・家族・関係者と話し合いを持つことにより様々な意見やアイデアを取り入れここに合った介護計画を作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録をつけ一か月ごとに行う会議で情報を共有し介護計画の見直しに活かせるようにしている		個々の生活・気づいた点など詳細に記録に記入し家族の方の意見も取り入れながら実践や介護計画に活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種連携によって介護職員に栄養や口腔内リハビリの専門家が来苑して実践してくださり、それをお手本にして入居者にサービスの提供をしている		リハビリ指導員、口腔リハビリ専門家が来苑してくださり実践を伴った指導をえて日々の生活に於いて利用者さんに提供し取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		のどかさを活かしゆったりした散歩をしていただいたり作物の収穫を一緒に行ったりしている		地域の銀行・農協・スーパーに出掛けるなど豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援しています	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		本人や家族様が希望する病院に受診したり、かかりつけの内科歯科メンタル科などは往診していただくことで入居者様の身体的負担を軽減している		ご本人様・ご家族様の希望を重視し適切な医療を受けられるよう支援しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		看護職とは情報を共有しすぐに指示をいただける関係を築けている		体調の変化や気づきを口頭で伝えるなど適切な受診や看護を受けられるよう支援しています	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入院時にはお見舞いに行き本人の様子を見たり、病院に向いた時や電話をした時などには情報をいただける関係を築くようにしている		入院時お見舞いに行く事でご本人様の様子・状態を把握し、病院関係者の方とも密に連絡を取り情報を得る事で関係を築けています	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		本人様や家族様と時間をかけて話し合い方針を決めて看取りを行うこともある		ご家族様の意見・要望を念頭に置き十分な話し合いを行いチームで支援に取り組んでいます	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		緊急時の対応の方法を記入した紙をユニットの台所の壁に貼ったり職員や必要な連絡先の電話番号をまとめた表を作っている		マニュアルに準じた急変・事故等の対応の仕方を苑内研修を通して学び周知徹底し、実践力を身に付けています	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		定期的に避難訓練をしたり新しい職員にはその都度教えたりしている公民館や中学校に避難出来る様協力体制を築いている		年二回避難訓練(自主訓練)を通して消防署の指導や指示のもと職員も一体となり取り組んでいます	

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者を敬う言葉かけを心掛けて対応するようにしている		職員ひとり一人がプライバシーに配慮した言葉かけに気をつけ対応するよう心掛けています			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が欲しい物や食べたい物を買うためや食べる為に外出支援をしたり職員が買ってきたりしている		密にコミュニケーションを図る事で利用者様の思いや希望を聴きとり自己決定が出来るように働きかけています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時に眠気が強い時は延食したり帰宅願望が強い時には一緒に散歩したりしている		利用者様のペースに合わせて生活が出来る様に支援を行っています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お誕生日や催し時には化粧をしたり髪の毛のセットをしたりしている		個性に合わせた洋服選びや整髪に気をつけ、お洒落を楽しんでいただけるよう支援しています			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューづくりの時に食べたい物をお聞きしメニューに取り入れている		献立に利用者様の希望を取り入れたり、色どりにも気をつけ、食事が楽しめるよう工夫しています			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食と10時15時に水分補給と15時におやつをお出ししている 入居者により大盛り、普通、小盛り等工夫している		利用者様の状態に合わせて刻み、ミキサー食で対応しています 水分摂取の少ない方には好みのものを提供し水分確保に努めています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の往診をしていただいている 毎日夜入れ歯の消毒をしている 毎食後職員見守りで口腔ケアしている 必要な方は仕上げ磨きを職員で行っている		毎食後、うがい、歯磨き等で口腔ケアを行い、義歯の方には夕食後洗浄剤につけ置きすることで清潔を保っています			

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を観察することでトイレに誘導するタイミングを見極めたり食後にトイレに誘導したりしている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行うことで、失敗やおむつの使用を減らせるよう支援しています			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を勧めたり、水分を多めに摂取するよう勧めたり、野菜をもう少し食べるように勧めたりしている	水分補給に努め利用者様の状態に応じて体操をすすめる等、予防を心掛けています			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	言葉がけを行い出来るだけ希望通りに入浴が行えるように配慮している	入浴を楽しんで頂けるよう言葉がけを工夫し、一人ひとりのタイミングや状態に合わせた支援を行っています			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な人には昼寝の時間をとったりあまり長く眠っている人には言葉がけをしたり散歩で良眠に繋がるよう支援している	利用者様の状況に応じて昼寝の時間を確保する等、調整を行い、安眠できるよう支援しています			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時飲み込みまで確認するようにしている 飲みあわせの悪い薬は薬局からの指示どおりの時間で服薬していただいている	利用している薬を全職員が把握し、確実な服薬介助を行っています。服薬後体調の変化の確認に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に合同レクをしたり各ユニットでいろいろレクをしたりしている	その人の出来る事、好きな事探りながら日々の生活の中で気分転換をして頂けるように支援しています			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に事業所周辺の散歩をしている 食べたい物がある時は順番に職員付添いで外出したり欲しい物がある時は一緒に買い物に行ったりしている	一人ひとり希望を確認しながら個別に対し、また家族様へも外出依頼を行い、一緒に時間を過ごして思い出を作ってもらえるよう支援しています			

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		訪問販売で買い物をしたりその業者の方にお願いしていつもは持ってこないお菓子を持ってきていただいた入居者様を買っていただいたりしている		週一回の訪問販売では個人の財布で買い物をしていただき、職員は見守りや介助を行い支援しています	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		年賀状は自分で書けるところは記入していただいたり携帯電話をお持ちの方はトラブルにならないよう見守りして電話していただいている		必要に応じて本人様が自ら電話をしたり電話の取次ぎを行う等支援しています	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		トイレはセンサーで電気がつくようにし電気をつける手間がかからないようにしている 毎日清掃し布団を干したりし居心地のいい空間作りを心掛けている		利用者様が常に心地よく過ごせるよう清潔を心掛け、玄関やホールには季節の花等の飾り付けを行い楽しんでいただけるよう工夫しています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		席の位置を考慮し相性の悪い入居者様が入る時は職員が必ず間に入り仲を取り持つようにしている		入居者様同士が気兼ねせず、気の合う入居者様同士でお話しやすい空間作りに努めています	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		家で使用していたベッド、布団、タンスやその他の家具を居室に持ってきていただき居心地良く過ごして頂ける様にしている		居室にご本人様の使い慣れた馴染みのある家具などを設置することで、居心地良く過ごせる空間作りに努めています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		タンスの前に小さな椅子を置いて座って服の用意が出来る様にしたり、タンスの一番下など開けにくい所にはあまり使わない服を入れ取りやすくしている		利用者様それぞれのレベルに合わせ個々に合った身近で出来る事を探し行っていたいでいます	